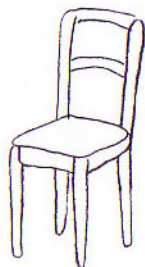
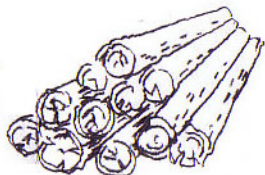
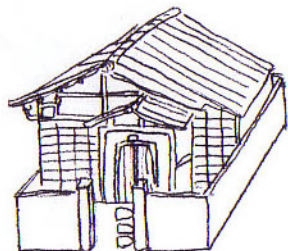


古材の居場所

—七つの家具展—



2010.03.23 — 03.28

京都造形芸術大学
環境デザイン学科インテリアデザインコース グループ展

材木商と芸大生、味あるタッグ



丸嘉の古い材木を使って家具の制作に取り組んだ学生たちと作品(京都市左京区・京都造形芸術大)

町家古材で家具製作

23日から中京で
7人が作品展

伏見 材木商の丸嘉
左京(京都市伏見区)

と京都造形芸術大(左京区)が産学連携で古い材木を使って製作した家具がこのほど完成した。町家の廃材を味わい深いテーブル、いすなどに再生させており、23日から展示会も開く。

材木の再利用を模索

していた同社が、市中
小企業支援センターの
「縁結び事業」の仲介
で同大学環境デザイン
学科の荒川朱美教授と
共同事業に取り組ん
だ。

昨年7月からインテ
リアデザインコースの
学生7人が参加。「ギ
フト」をテーマに授業
として企画、デザイン
から製作まで手掛け
た。土台がしっかりし
た古材を利用したハン
モックや折り畳めるい
す、低いテーブルやラ
ンプなど、古材なら
ではの温かみを生か
した家具7点が完成し
た。

丸嘉の小畑隆正社長
(39)は「古い材木は
乾燥していて強度があ
る。将来的に商品化し
たい」という。参加し
た同学科2年の喜島悠
さん(22)は「古い材
木は年月を経ないと出
てこない味がある」と
話していた。

展示会「古材の居場
所—七つの家具展」は
京都市中京区の京町家
サロンで23日から28日
(午前10時〜午後5時)
まで開く。入場無料。
(仲屋聡)